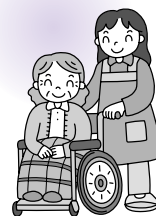
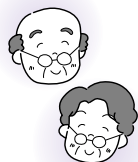


### ◆◆シリーズ第5弾◆◆

今回は「**これからの高齢者像**」…です。

#### 2015年の高齢者像

- (1) 引退した雇用者の増加
- (2) 高齢単独世帯の増加
- (3) 在宅での介護者（意識の変化の可能性）
- (4) 居住環境の重視
- (5) 消費と流行を索引してきた世代が高齢者に



(参考：経済企画庁（現 内閣府）「平成10年 国民白書」)

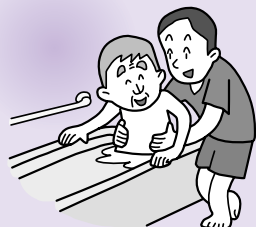
戦後生まれの「団塊の世代（1947年～1949年生まれ）」が65歳以上となる2015年は、65歳以上人口が3,277万人、高齢化率は26.0%、75歳以上人口が1,574万人、後期高齢化率は12.5%となる見通しです。

世代に占める雇用者割合は高く、年金受給に関しては厚生年金受給者が増加し、基礎年金のみの受給者の割合は減少していくといわれます。

また、意識調査の結果により在宅での介護を希望する高齢者が「介護を頼む相手」として回答した内容は「子供」、「子供の配偶者」が減少し、「ホームヘルパー」が増加をみせています。

これからの高齢者は現在の住宅に住み続けたいとする一方で、住み替えの希望も少なからずあり、衣食同様居住に関しても、考え方、価値観の多様性があると考えられます。

(参考：国民白書より)



これからの高齢者は、子どもとの関係は保ちつつも一定の距離を置きたいという独立志向が増加するものと考えられます。生活傾向としてはサラリーマン生活や子育て期を終えた後は、仕事や家事に生きがいを見出すよりも、趣味や旅行を楽しみながら、ボランティア活動や地域活動を通じて積極的に社会との接点を持った日常を送り、高齢期を活動的に過ごしていく人が増えると考えられます。

また、独立志向は介護に関する考え方にも現れ、万一、介護が必要になったときには、特別養護老人ホームや有料老人ホームで介護を受けることを想定する人がいっそう増加すると予測されます。

その一方で、在宅で、介護を受ける場合にも介護保険サービスの利用を希望する比率が高くなると考えられます。